

学校だより

以下に記載の学年は、各学校行事時のものである。

2024年1月から2月までの資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

- 1月19日 実用英語技能検定一次 2月18日 二次(全学年)
- 1月21日 技能士シーケンス制御 3級学科(2年電気科)
- 1月30日 技能士シーケンス制御 3級実技(2年電気科)

事業所交流セミナー

2年生を対象に、①事業所からの情報提供とニーズ伝達、②事業所実習・配属への意識付けを目的とし



事業所交流セミナー

た事業所交流セミナーを、10月から1月にかけて日専校特別教室において3回実施した。講師として来校された日立グループの金澤歩夢さん(106卒)、日立Astemoの齊藤豊城さん(105卒)からは技能五輪への挑戦について講演いただいた。日立ビルシステム水戸事業所の大宮昭弘さん、瀧田裕樹さんからは、安全の重要性や日専校生に期待するものなどについて講演いただいた。それぞれ、生徒から出された多くの質問に対して、講師から丁寧なアドバイスをいただいた。大変有意義な時間となった。

関東工業高校剣道大会

12月24日、東京都立多摩工科高等学校にて、第6回関東工業高校剣道大会が行われた。関東地区に所属する工業高校21校が参加し、男子は団体戦、女子は個人戦で実施された。関東大会に出場する強豪校も参加するこの大会に、本校は第2回・第3回と出場し、男子団体で2連覇している。しかし、近年新型コロナウイルスの影響で大会に参加できず、3大会ぶりの出場となった。男子団体は予選リーグを1位で突破し決勝トーナメントに進出したが、優勝した栃木県立宇都宮工業高校に大将戦の末に惜敗しベスト8という結果で終わった。女子個人に出場した大橋由依(1年機械科)は初戦こそ硬さ

が見えたが、試合を重ねることに調子を取り戻し、4回戦を勝ち抜き決勝戦に進出した。決勝戦の相手は多摩工科高校で上段を構える選手。これまで上段選手との対戦経験が少なく苦戦したが、試合終盤で自分の間合いをつかみ、小手を決め一本勝ちで優勝することができた。また、大会を通じて県外の工業高校生との新たな交友を深めることができ、貴重な経験となった。



関東工業高校剣道大会

1年機械科 大橋 由依

関東工業高校剣道大会に出場するのは初めてだったので、初戦は緊張と不安でなかなか思うように動くことができず、危うい場面もありましたが、2試合目からは場の雰囲気にも慣れ、自分のペースで試合をすることができ、決勝まで勝ち進むことができました。決勝の相手は上段の

選手で、上段に勝利した経験が少ない自分にとっては少なからず苦手意識がありました。絶対に負けないという気持ちで試合に挑み、出コテをとることができました。今大会で経験したことを次の関東予選や全国予選で、どんな相手でも絶対に負けないという強い気持ちで挑み、良い結果に繋げていきたいと思っています。

2年生国内英語研修

1月14日、15日、福島県天栄村にあるブリティッシュ・ヒルズにおいて、2年生の英語研修を実施した。学年単位での訪問は、3年目となるが、例年と比べると積雪も少なく、また、団体の宿泊者も本校のみで活動しやすかった。施設については、英国から材料を運搬して建築された数多くの建物や調度品により、日本とは思えないような異国情緒豊



2年生国内英語研修

かな環境を作り出していった。研修は、3つのグループに分かれ、現地スタッフと英語のみ使用した2日間で5つの研修を受講するというタイトなスケジュールではあったが、参加が自由な2つのアクティビティにも生徒が挑戦するなど、積極的な考動が印象的であった。修了証書授与式では、考動アクシオン委員長の崎川真之介(2年電気科)と小澤孝次郎(2年溶接科)の英語による挨拶で講師のスタッフに御礼を伝えることができた。語学力の向上だけでなく、校外の環境や施設におけるエチケット・マナーの習得にも繋がる研修となった。

技能士シーケンス制御3級検定



技能士シーケンス制御3級検定

1月21日に学科試験、1月30日に実技試験の2日間、2年生電気科制(5頁へ続く)



成沢小学校プログラミング教室

成沢小学校プログラミング教室

2月1日、日立市立成沢小学校の4年生33名を対象にプログラミング

(4頁の続き)
御コースの全員8名が国家検定「技能士シーケンス制御3級」試験に挑戦した。本検定試験は自動生産設備等の制御(頭脳)に相当するPLCのプログラム作成レベルや周辺機器(スイッチ、センサー、モータ等)構成による総合的な技能技術レベルを認定する試験である。生徒たちは、シーケンス制御プログラムの基礎となる3級レベルのラダープログラムを実習で学び、過去問題や模擬問題に取り組み、十分に準備をして試験に臨んだ。当日は全員が緊張した面持ちながらも落ち着いて取り組み、培った技能を遺憾なく発揮していた。可否は3月8日に発表される。

教材、マイクロビットを活用した出前授業を実施させていただいた。日専校からは職員2名と2年電気科生徒8名が出向き、小学生たちとカーリングロボットを用いたプログラミング学習を楽しんだ。小学生の目線に立つて準備・実行してくれた生徒たちの動きは素晴らしく、大変頼もしく感じた。また、全力で楽しんでくれた成沢小の児童たちの笑顔は何より嬉しいものだった。今後も小学生に対して、自分の手で何かの物や動きを生み出すことの喜びを感じてもらおう機会を提供することを大切にしたいと考える。成沢小と日専校は徒歩10分という近所さんでありながら、なかなか交流の機会を創ることができずにいた。今回貴重な機会をくださった成沢小の先生方へ心より御礼を申し上げる。

(広報担当:鈴木 江里)

2年電気科 猪口 健太

成沢小との交流にあたって、学校で先輩との会話と小学生との会話は違った会話になるだろうと不安でした。しかし、一緒にプログラミングに取り組みうちに同じ目線での会話にも慣れて楽しく関わることができるようになりました。小学生たちにより親しみを持ってもらえるように、事前に自分たちのあだ名を考えたり、楽しい自己紹介をするなど工夫して臨みましたが、思っていた以上に小学生の反応が良く、やりがい

を感じました。このような機会を活かしてもっと沢山の人にモノづくりの楽しさを知ってもらいたいです。

工業基礎学力テスト

2月2日、2年生が工業基礎学力テストを受験した。「工業教育の質の確保・向上の観点から、生徒の基礎学力の習得と学習意欲の向上を図るとともに、自校生徒の基礎学力の定着度合いを把握し、指導の工夫



工業基礎学力テスト

充実に資する」ことを目的として毎年実施されている。受験科目については、電気科は「電気」①直流回路②静電気、磁気③交流回路、三相交流④電気計測⑤情報基礎、通信技術の基礎の5つの観点。機械科は「機械」①力の合成・モーメント、仕事と動力②測定、機械製図③応力とひずみ、反力と曲げモーメント④材料の強さ、機械材料の性質⑤溶接・切

削・鍛造、材料試験の5つの観点。溶接科は「材料」①材料の一般的知識と性質、状態図と結晶組織②材料の試験と検査、炭素鋼③炭素鋼の熱処理、材料加工と管理方法④塑性加工、铸造⑤セラミックス、切削加工の5つの観点からそれぞれ出題された。各科目幅広い分野からの出題であったが、これまで学んで来たことを真剣な面持ちで取り組んでいた。

技能五輪電気溶接茨城県予選会

2023年度技能五輪「電気溶接職種」茨城県大会が開催され、本校より益山松(2年溶接科)が出場した。この大会は2024年度技能五輪全国大会の県代表を選考する大会であり、同日、県内の4会場で分散開催された。それぞれの会場で卒業生4名、事業所実習生の佐藤琉(3年生溶接科)大曾根陸(同)中條大吉(同)の3名、計8名が出場した。益山が本格的に課題製作の練習を開始したのは昨年10月、先輩方と比べ練習期間も短く厳しい状況での参加となった。また、職業能力開発協会、技能検定員が立会の元で行われる公式の大会の出場も初めての経験で、表情からも緊張している様子が伺えた。普段ミスをしない箇所でもミスをするなど、すべてが普段通りに課題を製作することが出来なかったが、今できることを十分に発揮して競技を終えることが出来た。2月8日、日立事業所に全員の課題を集め

採点を行い、3月中旬には県代表の推薦を得られるかが決定する。

2年溶接科 益山 松

今回の大会に出場して一番感じたのは「訓練は本番の如く。本番は訓練の如く。」ということを実践することの難しさです。先生方には日々の訓練において「課題を製作する時はいいつも本番だと思つてやること」と言われていました。しかし、大会を終え、自分としては普段の訓練から本番を意識していたはずなのですが、いざ本番では良くも悪くも普段より課題製作の時間が大幅に短縮したのです。これまでの訓練では無意識のうちに無駄な時間があったということが分かりました。今後の課題訓練ではこれまでに本番を意識して行い、溶接のレベルを上げていきたいです。



技能五輪電気溶接茨城県予選会